



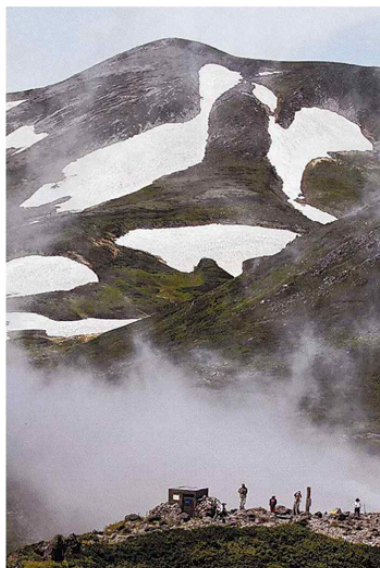
年 組 名前

道新でワークシート

「雪形」探し 春の楽しみ



大雪山系北鎮岳でくちばしを寄せ合うハクチヨウとチドリ 2010年7月26日、本社へリから



道内の山々で本格的な雪解けシーズンを迎えている。例年は5月ごろから、残雪が山肌に描き出す模様「雪形」が現れ、その姿は鳥や馬などにも見えて、登山者らの目を楽しませてくれる。記録的な少雪だった今年はどうな姿が見えるのか。

(網島康之、長谷川史子、桜井翼)

伝説を重ねて

一方、ハクチヨウとチドリの姿を同時に楽しめるのが北

大雪山系の旭岳(2291㍎)と北鎮岳(2244㍎)では毎年7月ごろ、鳥が現れる。旭岳の北斜面では、ハクチヨウが山頂に向かって舞い上がる。眺望に最適なのは、旭岳ロープウェイの姿見駅(1600㍎)から裾合平方面へ登山道を歩いて1時間半ほどの地点。今冬は少雪だったが、日が当たらないため雪解けは遅く、旭岳ビジターセンターは「現れるのは例年と同様に7月になるのでは」とみ

ハクチヨウ、チドリ、白馬出現 道内各地に



ニセコ山系のワイスホルンに現れる「白馬」=2015年5月28日

鎮岳だ。2羽が出会えるのは7月のわずか1週間ほど。七夕の時期にあたることから、織り姫とひこ星の伝説を重ね合わせて眺める人もいる。ただ、この山に登っても見ることはできず、その姿を望めるのは北鎮岳から約3㍎離れた黒岳(1984㍎)の頂上などからだ。層雲峡ビジターセンターは「遠くから眺めて、心身の疲れを癒やすのも登山の楽しみ方の一つ」と話す。オホーツク管内斜里町と根室管内羅臼町の境にある知床連山の遠音別岳(1330㍎)では毎年5月中旬から下旬にかけて、南斜面の山肌に、後

ろを振り返ったキツネの姿に見える雪形「見返りキツネ」がお目見えする。

種まきの合図

両町に隣接する根室管内標津町内の国道335号沿いや川北地区から山を望むと、山頂付近のキツネの顔や、水平にのびる長い尻尾が浮かび上がる。20年以上撮影を続ける道写協中標津支部の福沢英雄支部長(79)「標津町は「瘦せ形」だったり太ったりだったり、年によって違うキツネの姿を眺めるのが楽しい」と魅力を語り、「今年は雪が少なく暖かいので、5月の初めに姿が見られるかも」。地元では昔から、家庭菜園の種まきを始める合図にもなっており、標津町の「みどころ30選」にも選ばれている。ニセコ山系のワイスホルン(1045㍎)の東斜面には、毎年5月下旬ごろになると「白馬」が姿を現し、地域住民や観光客の目を楽ませる。全長600㍎ほどで後志管内倶知安町の中心部からも望

める。地元では「白馬」が現れると、ジャガイモやテンサイの植え込みが本格化するなど、春の風物詩として親しまれている。

倶知安風土館の学芸員小田桐亮さん(30)は「今年は例年より早いゴールデンウィークには見られるかも」と期待し、「毎年違った表情を見せる、天に向かって駆けるような馬の姿を楽しんでほしい」と話す。国際雪形研究会北海道支部の山田高嗣さん(45)は雪形の魅力について「山肌を見るだけで、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめる」と語る。その年の積雪や気温などの状況によって雪形の姿も異なり、「頭をやわらかくして、自分の視点で新たな雪形を見つけてみては」と勧めている。



「見返りキツネ」が浮かぶ遠音別岳 2019年5月9日



年 組 名前

道新で ワークシート

①記事の中には4つの山の名前が出てきます。見つけましょう。

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

②記事にある山には、地図帳に載（の）っているものもあります。探（さが）してみましょう。